



大原野地域

OOHARANO



小塙町の美しい畠田「フジバカマ園」から眺める市内風景



海を渡る蝶アサキマダラ

DATA

人口 8,575人

世帯数 3,174世帯

面積 24.712 km²

※平成27年国勢調査
に基づく推計人口
(平成31年1月1日現在)

西山の麓に広がる大原野は風光明媚なところで有名な神社仏閣も多くの春は桜・秋はもみじと四季折々、観光客も多く賑わっています。田園風景も広がり、米・茄子・筍は一大生産地です。これからも景観づくりと地域の振興活性化に向けて取り組んでまいります。

市井山居の大原野

大原野は今も田舎である。田舎と言ってもよい。

田舎。古くからのコミュニティがある。住民の自治意識が高い。自治会の組織もしっかりしている。大原野神社、善峯寺、勝持寺、西迎寺など多くの社寺が点在しているが、地域住民の信仰も篤い。大原野は「京の原風景が今も残っている地域」と言われているが、はたして昔はどんな風景だったのか。

『源氏物語』の第二十九帖「行幸」に大原野が登場する。みかど臣下を引きつれ鷹狩りに出かける場面である。

「こうして大原野に御到着あそばして御輿を止め上達部の平張りの中で食事を召し上がり…」(現代語訳・与謝野晶子)とあるが、風景は描かれていない。ただ、鷹狩りで雉が登場することから、竹林が広がった風景が想像出来る。

文献によると紫式部は藤原氏の氏神である大原野を参拝しており、この時の印象を下に「行幸」の舞台上に大原野を選んだのではないか。余談になるが「行幸」の次の帖は「藤袴」である。大原野で発見された絶滅寸前危惧種の藤袴の原種を保護し、小塙で育成に当たっている園芸家の藤井肇氏は、「行幸の次が藤袴という流れは、紫式部が大原野に来た時に咲き乱れる藤袴を見たに違いない。」と言っておられる。



次に白洲正子である。日本の美を極めたといわれる白洲正子(1910~1998)はその著「かくれ里」で大原野について書いている。

「このあたりは筍の名所で美しい竹藪がどこまでも続いて行く。(中略) 楽平や西行の昔からここはこういう隠者たちのかくれ里であった。」紫式部から白洲正子の時代まで千年近くの時が流れるが、鷹狩りの舞台とか



説燈(ゆうがとう)に点火

くれ里、大原野は昔も今も田舎である。

「市井山居」という言葉がある。「市井」とは井戸があり、人が集まる所、つまり町を意味する。町で働き、田舎に居を構える、市街地までざっと40分の大原野は「市井山居」に最適の地である。「田舎暮らし」に憧れる人は定年後の高齢者だけではなく、自然に恵まれた環境で子どもを育てたいという若年層にも増えていると聞く。ネット社会がさらに進めば「山居」の流れは加速するのではないか。大原野には交通、通信、エネルギーなどの社会インフラは整つており、住みたい人を受け入れ、若年層の流出を防ぐために解決すべきことは、やはり住居の問題だろう。

次の課題は「大原野ブランド」の創出だと思う。ハードルは高いが決して不可能ではない。この地には、白洲正子が愛した善峯寺、勝持寺、金蔵寺など、ブランドイメージを高める素晴らしいコンテンツがある。筍はすでにブランドである。これまでブランド戦略については検討がなされ、熱い想いの人たちが事業を展開していると聞いているが、なかでも藤袴の育成事業などは大いに役立つのではないか。

ネット時代の情報発信においては“かくれ里”的姿勢ではいけない。“由緒ある田舎”を大いに発信することが大切だと思う。



風土・food 大原野 2016 会場の様子

風土・food 大原野 2016 品評会

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

年間行事

- ・目赤社資増強運動
- ・大原野神社の例祭
- ・大原野神社子供みこし
- ・自治会長と各種団体長による合同会議
- ・野田会の田の虫送り
- ・「大原野だより」発行
- ・河川美化活動（小畑川・善峰川の河川清掃）
- ・自主防災研修
- ・環境美化クリーン作戦（区域内の一斉清掃）
- ・大原野森林公園体験学習
- ・共同募金運動
- ・区民体育祭
- ・風土・food 大原野
- ・フェス・タ大原野
- ・大原野消防分団出初式
- ・年末特別警戒パトロール
- ・自治連合会主催による懇親旅行
- ・「大原野だより」発行
- ・社会福祉協議会加入
- ・大原野森林公園の講演会
- ・環境美化クリーン作戦（区域内の一斉清掃）

PHOTO GALLERY



御田刈祭の土俵祓（どひょうばらい）



情緒溢れる秋の大原野神社

OOHARANO